

3 自己評価及び学校関係者評価結果

(1) 自己評価

<本年度の重点目標>

- ① 保育の計画性と職員間の共通理解をはかる。
- ② 教師との信頼感に支えられた生活の展開と幼児一人一人の特性に応じた指導をはかる。
- ③ 乳幼児の安全な生活、施設設備の安全管理に努める。
- ④ 教育の質の向上のために、園内研修や研修の充実をはかる。
- ⑤ 保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応をはかる。
- ⑥ 地域との交流や、子育て支援事業の充実をはかる。

自己評価書 (教職員)

評価(A 十分達成された B 達成された C 十分ではない D 不十分である)

	評価点
I 「教育及び保育の目標、計画性」について	
3号認定児(1.2歳児)は、子どもが昼寝の時間に、お互いに気が付いたことや、保育についてについて話し合うことができ、共通理解ができるが、3歳児以上児の非常勤とのチーム保育が、勤務時間の関係や個人の意識の違いから、教育課程を共通理解することがなかなか難しいと感じている。しかし、今後は一人ひとりが意識し合い、しっかり伝え共通理解をしていくことがやはり一番大事ということで、連携の大切さを伝えた。 園内で公開保育をして見せ合えば、自分保育の見直しにもなるので、必要性を感じるが、職員の配置から考えると難しく、今後の課題と感じる。	B
II 「幼児への対応」について	
それぞれの保育教諭が、環境や活動やねらいなどしっかり考えて、それぞれのスキルを上げる必要性は感じているので、職員全体で積極的に情報交換をできる時間をつくっていきたい。 また、子どもの「こうしたい」という気持ちを大切に、あそびが深められるように配慮していることは、とても大切なこと。今後もそれぞれの子どもの成長を把握し、それぞれに応じた声掛けをみんなで行いながら、今まで同様、全員で子どもを見ていくように確認した。	A
III 「健康及び安全」について	
避難訓練については、自分たちの避難方法の確認方法の確認のため、園内だけでなく専門家(消防署や危機管理課)などに見てもらい、アドバイスをいただき自分たちの避難訓練方法を見直していきたい。 子どもの安全は、たくさんの目で見るのが大切だが、大勢いると誰かが見てくれていると思いがちなので、先生たちの配慮を考えながら声を掛け合っていくよう意識していく。また、ヒヤリハットの記録についてもただ記録し伝えるだけでなく、対策についてももう少し細かく検討し合うことを進めたい。 室内の温度や湿度にも気をつけながら、水分補給もしっかりしていきたい。	A
IV 「保育教諭としての資質や能力、良識、適正」について	
今年も、リモート研修での研修が多く、とても助かったということなので、今後も、リモート研修を進めたい。 今年、園のことで全国的な大きな事件があり、いろいろ話題になり研修も行った。研修をとおりて自分を含め一人ひとりが責任をもって行動することの大切さをみんなで再確認でき、また、保育を安全かつスムーズに行うには、職員同士の円滑な人間関係がとても重要だということも改めてみんなで確認できた。	A
V 「保護者への対応」について	
連絡帳や電話だとどうしても伝えにくいこともあるし、適切な文章になるか考えるなど、とても気を使ってしまうたり、外国籍の子への説明やいろいろな降園時間の子にもなるべく直接話をしたいと思ってしまうと、難しさを感じている。勤務時間等を考えると、そこは遅番の先生にお願いする等、職員も切り替える必要を感じる。 支援室を利用する人も含め、度の保護者に対してもしっかりと顔も見て挨拶したり、その子について一言でも伝えられるように、保護者の対応には気をつけている。 出欠席がタブレットになり、欠席が続いている家庭には電話連絡で時々様子を聞くなど、今後も気をつけていきたい。	A

Ⅵ「子育て支援事業・地域との交流」について

<p>夏休みや3時以降も、各学年ごと保育をしたが、2号認定児が増え、従来の預かり保育というより教育時間後の保育と考えてきた。ただ、園としては今までの預かり保育のないよう、ねらいは引継ぎ、異年齢との関わり、教育時間とは違うねらいのもと、充実した時間にしていきたい。また、少人数でも1号認定児の預かりの子もいるので、その連携も大切と考える。</p> <p>今年もコロナ禍ではあるが、未就園児のお母さんたちの支援の場がなくならないよう、支援室開放やイベントは行ってきた参加者は以前より少なく、家で子育てをしている人の減少も感じる。職員もなるべく対応するよう気をつけ親子の支援になるように努めた。</p> <p>また、地域のイベントや、交流、学校との連絡会などもできなくて、残念だった。</p>	B
---	---

(2) 学校関係者評価

学校関係者評価書

Ⅰ「教育及び保育の目標、計画性」について	評価点
勤務時間等で、なかなか連携は難しいようだが、お互いに意識し合い、よく話し合い、子どもたちが楽しく過ごせることを一番に考えることが大切なのは。	A
Ⅱ「幼児への対応」について	
子どもの個性と同様、保育教諭にも個性があるので、個性のある保育があっていいと思う。	A
Ⅲ「健康及び安全」について	
昨年は、大きな事件があり、園でも研修を行って、安全面ではかなり意識を持っていると思う。反面、安全を重視しすぎて、何もできないということは避けるべきだと思う。	A
Ⅳ「保育教諭としての資質や能力、良識、適正」について	
先生も忙しいと思うが、一人ひとりのスキルアップは必要だと考える。	A
Ⅴ「保護者への対応」について	
先生たちは、本当に保護者に対して気を使ってきているが、もう少し肩の力が抜けるような時代になるといいですね。出欠連絡が、携帯からになって便利になってよかった。コロナ禍のためか、給食参観がなくなって保護者も残念がっているので、ぜひ復活させてもらいたい	A
Ⅵ「子育て支援事業・地域との交流」について	
高齢者、年上の子どもとの交流で、子どもがみんなに見守られていることを、覚えてほしい。	A
<今後に向けて>	
<p>先生たちは、日々の保育を本当に頑張ってくれていると、温かく評価していただいた。また、卒園児の保護者には、「園時代のこどもも、保護者も卒園後もつながりがあるので、楽しい時代だったんだなと思う」と嬉しい言葉もいただけた。</p> <p>コロナ禍の中、やり方等工夫していただき行事も行われているが、以前やっていた行事でも、保護者からの希望が多い給食参観は、来年度コロナの状況や市の状況を聞きながら検討していく必要性を感じた。</p> <p>また、運動場の遊具や、日陰のことも話題になり、園でもそのことについては検討課題としているので、今後考えていきたいと思う。</p>	